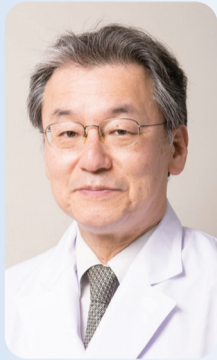




## 新任のご挨拶



## 病院長 南 敏明

2020年4月1日、大阪医科大学病院病院長の職を拝命致しました。新型コロナウイルス感染症増加の中、重責を担うこととなりました。宜しくお願ひ申し上げます。

2027年に迎える大阪医科大学創立100周年の記念事業として、病院新本館の建築が、「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げスタートしています。2016年3月、病院西側に「各手術室の主用途に応じた専門性だけでなく高い汎用性を両立する」コンセプトが盛り込まれた「中央手術棟」が竣工しました。中央手術棟は、2階 集中治療室（16床）、日帰り手術室（4室）、3階 中央手術室（16室、ハイブリッド手術室2室、バイオクリーン手術室2室、陰圧室1室を含む）、4階 胸部外科病棟、5階 消化器外科病棟などからなります。TAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術）などのアンギオハイブリッド手術、CTハイブリッド手術やロボット手術など最新技術が導入され、良好な手術成績を上げています。医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・中央材料室・物流・施設・事務によるチーム医療を実践し、24時間断らない中央手術室を運営しています。手術症例数も大幅に増加して、2019年には年間12,557例の手術、7,272例の麻酔科管理症例が施行され、文字通りhigh volume centerとなりました。現在の病院5号館と臨床講堂棟を取り壊し、2022年には最新設備を導入した12階建ての病院新本館A棟が、2026年には病院新本館B棟が建築される予定です。そして、病院新本館A棟1階には、大阪府三島救命救急センターの三次救急機能が移転する予定です。三次救急機能が移転されてきても、医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・中央材料室・物流・施設・事務によるチーム医療を実践し、24時間断

ない手術を中央手術室で十分に対応可能と思います。2027年まで続く新本館建築のプロジェクト推進会議議長も兼務しており、現状の各診療科の外来・病棟の患者数を反映させ、そしてA棟完成の2022年、B棟完成の2026年の医療環境も予想しながら設計に関与しています。次世代へ夢のある病院建築、100周年事業への橋渡しの一翼を担えたらと考えています。特に新本館で私は診療することはなく、私自身が入院してお世話になることを考えて建築に当たっています。工期中、当院を受診される皆様や近隣住民の方々には何かとご不便やご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年4月に大阪薬科大学との大学統合により医療系に特化した総合大学、大阪医科薬科大学になります。医学部、薬学部、看護学部の医療系総合大学病院になることで、今後、さらなるチーム医療、大学病院における教育が重要となります。今まで、中央手術部部長、栄養部部長、医療総合管理部部長、臨床工学室室長、緩和ケアセンターセンター長など病院中央部門を担当させていただいた経験を基に、チーム医療を安全にさらに発展させて行こうと思います。

われわれ職員一同は、「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します」という本院の理念を実現すべく、一丸となって日々努力し、患者さんご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しています。本院が三島医療圏の最後の砦であるとの自負で、患者さんを24時間、迅速に受け入れて行きたいと思ひます。宜しくお願ひ申し上げます。



## 副院長 勝間田 敬弘

このたび、附属病院副院長を拝命いたしました。よろしくお願ひいたします。本院の理念である「地域社会のニーズに安全で質の高い医療をもって応える」ことが、この特定機能病院に課せられた使命であることを忘れずに、職務に当たる所存です。私は安全（危機）管理を担当いたします。医療安全を実現し維持する手立てには、二つの手法があります。最も重要なのは、診療における危機の発生を未然に防ぎ、常に患者さんに安全・安心に裏打ちされた医療を提供するためのリスクマネジメント

です。これには、医療者の不断の努力と自己監査が求められます。一方、発生した危機に対処し、患者さんを速やかに救済するクライシスマネジメントも重要です。ここでは、正確な情報収集と適切かつ迅速な行動が求められます。すべての経験を、予防＝リスクマネジメントに結実させることで医療安全は極まります。安全の維持活動は、時には医療者に厳しく提言する場面もございます。しかし、全ては「患者さんの安全を願ひ行動する文化」に結実すべきものと確信します。この理念の下、部署一丸となって職責を果たしてゆきたいと存じます。



## 副院長 根尾 昌志

この4月から副院長として3期目を務めることになりました整形外科教室の根尾昌志です。診療管理担当として中央手術部の運営を担わせていただきます。本院では2016年にハイブリッド手術室2室を含む最新の設備を備えた新中央手術棟が完成し、今までにも増して難度の高い手術を行っております。手術数も毎年増加しており、昨年は年間12500件を超えました。高度な手術というのは特定機能病院の使命ではありますが、全国的にみても医療事故の多くは手術部で起こっており、特に高難

度手術と医療安全を両立させることは難しいことです。この1年半、安全管理担当の副院長として医療安全に深くかかわってきた経験を活かし、対処していきたいと考えております。また、一方では臨床研究審査委員会の委員長も拝命しており、大学病院ならではの新規治療法の開発や研究の倫理的側面に目を光らせております。これらの仕事を通じて、南敏明 新病院長の下、患者様にとって安心できる質の高い病院を目指して参りたいと思ひます。皆様のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 副院長 高須 朗

このたび、副院長を拝命いたしました救急医学教室の高須 朗です。我が国における平成30年度の全国の救急出動件数は年間660万件で、そのうち高齢者の搬送は60%まで占めるようになりました。高齢化社会が進み、急性期を含めた包括的地域一体型医療圏の構築を見据えて、救急医療の必要性は益々高まっています。当院でも、多様化して重症化する救急搬送に 대응するよう体制を整えてまいりましたが、昨年の救急車受け入れ件数は約3,200件で、2012年の1.7倍に増加しました。ま

た、2018年大阪府北部地震を経験しましたが、発災後7分で災害対策本部を立ち上げ、職員一丸となり病院機能を維持しました。現在、新棟本館建設工事が進行しています。必ず発生するとされている南海トラフ地震にも対応できる免震構造で、複数重症傷病者の同時受け入れにも対応可能な蘇生・救命救急処置室を設置する予定です。南病院長の新体制のもと、有事にも強い病院体制構築に微力ながら尽力していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 副院長 今川 彰久

令和2年度より副院長職を拝命いたしました糖尿病代謝・内分泌内科の今川彰久と申します。よろしくお願ひいたします。日本の直面する大きな課題として「超高齢化社会への対応」があげられることは言を待ちません。特に私の専門とする内科領域においては患者さんの高齢化が顕著です。このような状況において、病院がどのように変化し、対応していくのかは、私たちが取り組むべき重要な課題といえます。今までの内科医としての経験を糧にして病院と地域の発展に微力ながら尽力させていただきたいと思ひます。

また、栄養部、臨床倫理委員会などを管轄させていただきますが、この2つの領域に共通するキーワードは「多職種」であると思ひます。もう少し膾炙された言葉を選ぶと「チーム医療」になるでしょうか。医師だけではなく看護師、薬剤師、栄養士、調理師、事務方をはじめとした医療スタッフの意見を元に医療を展開することが重要と思ひます。そしてそれらは当院の理念でもあります、「社会のニーズに応える安全で質の高い医療」の達成に直結するものだと思います。

ご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。



## 副院長 星賀 正明

このたび、副院長を拝命いたしました循環器内科の星賀正明です。よろしくお願ひ申し上げます。急速に進む高齢化に伴って、疾病構造が大きく変化しています。多くの患者さんが複数の疾病をお持ちで、また筋力や認知機能など入院自体が悪化を招く場合も多く、医療のニーズは多様化・複雑化しています。このような時代においては、多職種の連携と協力による「チーム医療」が最重要です。当院は以前から診療科間の連携を育んできました。今回、副院長として、主に職員教育と医療連携を担当しま

す。患者さんの声に耳を傾け、最良のチーム医療を行えるように、職員の皆さんと共に頑張りたいと思ひます。また、当院だけで医療を完結する事は困難で、地域医療との結びつきが大切です。近隣の医療機関や介護施設との連携を一層高め、地域で患者さんを支えていく体制をめざします。

新病院長の南敏明先生のご指導のもとで、職責を果たしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

# 「大学病院新本館」建築ニュース



現在の工事中写真

完成イメージ

## 病院新本館A棟建築工事 いよいよ着工へ

大阪医科大学創立100周年記念事業として進めている病院新本館建築プロジェクト。病院新本館は、A棟とB棟が連なる地上12階、地下1階の免震建築物です。建築工事はA棟(～2022年)とB棟(2023年～2025年)に分けて行われます。A棟工事開始に向けて、昨年6月から病院5号館と臨床講堂棟の解体工事を進めておりましたが、建物の解体がほぼ終了しました。8月からはいよいよ建築工事が始まります。

また、電気、電話、水道、ガスなどのライフラインをまとめて地下に埋設する共同溝の工事も始まります。(新型コロナウイルス感染症の関係で変更する場合があります)

これにより、シャトルバスや送迎用車両(身障者含む)など、入構ルート的大幅な変更が発生する予定です。詳しくは、院内掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

病院新本館では、AIを積極的に活用した「超スマート医療を推進する大学病院」の名にふさわしい、高い機能と設備を兼ね備え、医師・医療関係者が診断・検査・治療に高い技量を発揮し、皆様に快適で最高の医療を施すことを目指しており、院内の各階プランや設備等について鋭意検討しております。

工事期間中、皆様にはご不便をおかけしますが、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

## 2020年度 肝臓病教室開催予定

※都合により予定が変更になる場合があります。

無料  
申込不要

時間/15:00～16:00 場所/第11会議室(病院西管理棟4F)  
概要/本院では肝臓病についての理解を深め、日常生活に対する疑問や病気に対する不安を解消することを目的に、肝臓病教室を開催しています。お気軽にお越しください。



### 2020年度 開催日程

第1回 4月19日(木)

4月の肝臓病教室は、新型コロナウイルス感染が懸念されるため、**中止**となりました。

第2回 6月11日(木)

6月の肝臓病教室は、新型コロナウイルス感染が懸念されるため、**中止**となりました。

第3回 8月13日(木)

・肝細胞がんに対するいろいろな治療法(医師)  
・B型肝炎、C型肝炎、肝細胞がんに関する薬剤とは(薬剤師)

第4回 10月8日(木)

・非アルコール性脂肪性肝炎(脂肪肝)について(医師)  
・肝臓に脂肪をためない食生活(栄養士)

第5回 12月10日(木)

・意外と多いB型肝炎ウイルス感染症(医師)  
・B型肝炎にもちいる薬剤とは(薬剤師)  
・ウイルス性肝炎に対する助成(医療ソーシャルワーカー)

第6回 2月13日(木)

・料理教室(予定)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、日程を変更させて頂く場合がございます。最新の情報は肝疾患センターのホームページでご確認頂くか、肝疾患センターにお問い合わせください。

お問い合わせ:  
大阪医科大学附属病院肝疾患センター  
Tel.072-683-1221(代)  
内線:2923

## 市民公開講座

2020年2月15日開催

### 「進化する乳がん治療 — 増え続ける乳がん に挑む —」

乳腺・内分泌外科 科長 岩本 充彦



乳がん罹患率は増加の一途をたどり、女性悪性腫瘍の第1位になり、現在日本人女性の約11人に1人が乳がんになることが明らかとなっています。しかしながら他のがん種と比較しても、治癒率が高いことも特徴といえます。また、再発してからも薬物療法を継続することにより、長期の生存が得られる患者が多いことも明白な事実です。

乳癌にはエストロゲンレセプター、プロゲステロンレセプターの有無、HER2過剰発現の有無等の生物学的特徴に応じて分類される、サブタイプと呼ばれる種類が存在し、治療法が大きく異なることが知られています。

乳がん治療は正に「日進月歩」であります。新薬が次々に開発、承認されています。抗HER2薬を中心とした分子標的治療薬、CDK4,6阻害薬、PARP阻害剤、抗PD-1抗体療法、エブリリンなどの新規化学療法、フルベストラントなどの内分泌療法など、それらには枚挙に暇がありません。故に、以前なら生命危機的な病状であっても、長期生存される方が増えてきましたし、進行乳がん症例でも、乳癌を克服される方が増えていることは紛れもない事実です。さらに、手術はより縮小方向にあり、乳房再建を含めた手術のテクニックも向上し、根治性と整容性を兼ね備えた手術も施行可能となりました。

私は今後も、最新情報を収集しつつ、最適な治療を提供することに努め、乳がん患者を一人でも多く笑顔に変えられる様努力を続けたいと考えています。

## 2020年度 市民公開講座 開催予定

広く社会に開かれた大学を目指し、地域社会の知的向上と医学知識等の普及を図ることを目的に、市民を対象とした公開講座を開講いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

回	開催日	講演担当部署
第1回	5/30(土)	【開催中止】
第2回	7/4(土)	形成外科学
第3回	9/19(土)	脳神経外科学
第4回	11/7(土)	内科学Ⅲ
第5回	12/19(土)	泌尿器科学
第6回	2/20(土)	麻酔科学

詳細は、後日ホームページにてご案内いたします。

## 2019年度防災訓練の実施報告 災害対策委員会

2月15日(土)14時から、大規模地震発生による多数傷病者の受入れを想定した訓練を実施し、医師、看護師、技術員、事務員ら約130名が参加しました。訓練は、災害対策マニュアルに基づき、外来フロアに現場指揮所や赤・黄・緑エリアを設置し、模擬患者を受け入れトリアージを行い、各エリアで模擬診療を実施しました。災害対策委員会では、今回の防災訓練を振り返り、いつか必ず起こる大災害に備えて、災害対策の向上につなげていきたいと考えています。防災訓練にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

赤エリアの診療風景



黄エリアの診療風景



トリアージの実施風景